

第2回「産総研 生命情報科学人材養成コース」シンポジウム開催報告

H13年度から実施している「産総研 生命情報科学人材養成コース」の成果を広く皆様にお知らせする機会として、第2回シンポジウム『バイオインフォマティクス 未来への挑戦 -お台場から世界に向けて-』を10月3日(金)に開催いたしました。会場の日本科学未来館7階、みらいCANホールには、企業や大学、研究所などから多くの方々のご来場を賜り、これからのバイオインフォマティクスに対するさらなる期待と責任を感じるものとなりました。

本年度は招待講演者に九州大学大学院教授の久原哲先生をお迎えし、「ポストゲノム研究におけるネットワーク解析」と題した講演を賜りました。午前午後の2部に分け、第1部は本コースの養成者として日頃指導にあたっての講師陣の研究発表、第2部は被養成者の中から選ばれた4名の研究発表を行いました。また、別室のポスター会場では44枚の研究ポスターを掲示し、研究者自ら来場者の方に詳細に研究内容をご説明しました。

ヒトゲノム読取りが終了し、本格的にポストゲノムの時代に入ってきたライフサイエンスの道において、いかにバイオインフォマティクスが先見の明としてその道を照らせるか、研究者たちにとっても改めて刺激となる機会であったと思われれます。



<被養成者による研究発表>

- 関嶋 政和 (CBRC・タンパク質機能チーム)
「計算機シミュレーションによるプリオンタンパク質の構造転移機構の解明に向けて」
- 加藤 毅 (CBRC・数理モデルチーム)
「タンパク質の構造比較のための回転並進パラメータの推定法」
- 山崎 千里 (BIRC・統合データベース解析チーム)
「統合的ヒト遺伝子アノテーションシステムの構築とその実用」
- 旭井 亮一 (CBRC・細胞情報チーム)
「計算機とDNAチップを用いた核酸認識素子の探索」



左から関嶋、加藤、旭井



久原先生ご講演の様子

<講師による研究発表>

- ポール・ホートン (CBRC・配列解析チーム長)
「配列モチーフ抽出アルゴリズムの最前線」
- 諏訪 牧子 (CBRC・副研究センター長)
「網羅的ゲノム解析による膜タンパク質機能予測」
- 広川 貴次 (CBRC・分子設計チーム長)
「レセプターおよびチャネルタンパク質を対象としたバイオインフォマティクス解析」
- 高橋 勝利 (CBRC・細胞情報チーム長)
「プロテオミクスにおける計測とインフォマティクスの融合」
- 伊藤 剛 (BIRC・統合データベース解析チーム)
「ヒト完全長cDNAを用いたアノテーションと解析」

(*CBRC: 生命情報科学研究センター、BIRC: 生物情報解析センター)

大学との学術研究交流協定締結

産総研は、早稲田大学、東京農工大学との3機関間で、ナノバイオIT融合研究の推進を目指し、2003年9月1日から5年間の学術研究交流に関する協定を締結いたしました(10月8日プレス発表)。各々の特徴を活かして先端分野に挑戦するこの提携において、CBRCは高度計算機環境を活かしたバイオインフォマティクスをナノバイオ分野に活用する役割を担っていくことになりました。また、来年度末に完成予定のバイオIT融合研究棟(お台場第2棟)はこのプロジェクトの拠点としても活用される予定です。

これまでもCBRCは、連携大学院契約を結んでいる奈良先端科学技術大学院大学および東京医科歯科大学からの学生はもとより、東京大学、早稲田大学、東京工業大学などからも学生を受け入れ、積極的に大学との連携、人材のインキュベーションセンターとしての役割を果たすよう努めて参りました。今回の協定が、人的交流や共同研究、研究資料の交換等、多岐にわたる交流を通して、産学官連携の礎を強固なものとし、よりダイナミックな研究発展、展開につながるようさらに努めます。



所内の学生コーナーの様子